

財政黒字化「25年度」外す

骨太原案、「目標」は維持

政府は31日の経済財政諮問会議で、今年の「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」の原案を示した。焦点だった財政健全化については「これまでの目標に取り組む」としつつも、ほぼ毎年記載してきた「2025年度」の年限を削るなど自民党内の積極財政派に配慮して書きぶりを弱めた。

政府は18年、国と地方の基礎的財政収支（プライマリーバランス＝PB）を黒字化する目標を「25年度」に設定。以降、新型コロナ対応で記載内容が絞り込まれた20年をのぞき、骨太の

■骨太の方針の主な内容

- ・「カレンダーベースで目標を置くべきではない」と公を含め幅広く検討
- ・原子力など脱炭素効果の高い電源を最大限活用
- ・国家安全保障の最終的な担保となる防衛力を抜本的に強化
- ・マイナンバーカードの保険証利用が進むよう、保険証の原則廃止を目指す
- ・生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民歯科健診）具体的な検討

方針には年限を毎年記載してきた。

山際大志郎経済再生相は会見で「25年度の目標は当然やつていぐ。方針を変えたわけでも、後退させたわけでもない」と強調した。ただ、安倍晋三元首相が

「カレンダーベースで目標を置くべきではない」と公然と異を唱えるなど、今年は自民党内で積極財政派が勢いを増した。政府としても配慮せざるを得ず、年限も堅持するを得ず、年限や昨年は入れていた「目標を堅持する」との言葉を削った。さらに「現行の目標年度により、状況に応じた経済政策の選択肢が求められてはならない」との文言も盛り込んだ。

骨太の方針は、政府の経済財政運営や来年度予算案の基本となるもの。同日に発表された、新しい資本主義実行計画の内容も反映されており、6月7日に閣議決定する見通しだ。